

次テ軍司令官ハ五月四日第十四師團長ニ對シ步兵三大隊步兵第五十九聯隊(第一、第二大隊欠)、步兵第十五聯隊第一大隊、步兵第五十聯隊第二大隊ヲ瀏河鎮、嘉定及南翔鎮附近ニ殘置シ爾餘ノ主力ヲ以テ第一線ノ警備ヲ撤收シタル後滿洲ニ轉移スヘク命セシカ第十四師團主力ハ五月五日及六日吳淞港ニ於テ乘船シ同九日及十日大連ニ上陸セリ

上海ニ殘置セラレタル前記部隊ハ五月九日及十一日吳淞港乘船、同十二日及十四日大連ニ上陸セリ

第三款 上海派遣軍全部ノ撤退

軍司令官ハ五月五日停戰協定成立竝第十四師團ノ撤退ニ伴ヒ六日主力部隊ヲ獅子林、楊行鎮、大場鎮、真茹鎮ノ線以東ノ地區ニ撤收シ次テ一部ヲ以テ占領シアリシ瀏河鎮、嘉定、南翔鎮ノ線ヲ九日、羅店鎮ヲ十日ニ撤收セリ

陸軍中央部ニ於テハ上海派遣軍ノ撤退ノ時機ニ關シ考究中ナリシカ上海方面ニ於テハ曩ニ該地ノ平靜ヲ脅威セル支那軍ヲ一定距離以外ニ驅逐シ派兵ノ主眼タル帝國居留民保護ノ目的ヲ達シタルノミナラス五月五日停戰協定成立シ引續キ圓卓會議ノ開催セラレントスル機運ニ到達スルヲ得今ヤ帝國陸軍ヲ駐屯セシムルノ必要ヲ認メサルニ至レルヲ以テ五月十一日左ノ部隊ヲ歸還セシムヘク命令セラル

上海派遣軍司令部

第九師團

機關銃第四大隊

上海派遣軍ノ兵力結算及撤退

野戰重砲兵第二聯隊第一大隊

攻城重砲兵第二聯隊第一中隊

第三師團第一、第二野戰高射砲隊

飛行第八大隊第一中隊

獨立飛行第三中隊

飛行第二大隊第二中隊欠

上海派遣飛行第一中隊

獨立氣球第一中隊

獨立工兵第六大隊第一中隊

獨立工兵第九大隊

其 他 野戰電信及無線電信部隊及兵站部隊

右諸隊ハ五月十六日乃至三十一日上海及吳淞港ニ於テ乘船シ五月二十日乃至六月五日宇品、門司及大阪ニ上陸シ茲ニ全兵力ノ撤退ヲ終レリ

第四款 海軍部隊ノ撤退

上海ニ派遣セラレタル第三艦隊ハ上海派遣軍ト協同シ其任務ノ達成ニ努力シツツアリシカ上海附近ノ

第五節 上海派遣軍並海軍艦船部隊一部ノ撤退

情勢平靜ニ歸スルニ從ヒ逐次其一部ヲ内地ニ歸還セシメタリ其撤退狀況左ノ如シ第三艦隊司令官ハ依然上海附近ニ在リテ前任務ヲ續ス行

- 一 第三戰隊、第一水雷戰隊、第一航空戰隊並巡洋艦大井ハ三月二十日撤退ス
- 二 第十三驅逐隊三月十三日上海ニ到着ス、並航空母艦能登呂ハ五月十一日撤退ス
- 三 上海海軍陸戰隊ハ左ノ如ク撤退ス

佐世保特別陸戰隊七百六十二名 四月十一日

橫須賀特別陸戰隊五百五名 四月二十三日

吳及橫須賀特別陸戰隊四百七十六名 五月十八日

附記

- 一 四月三十日漢口分遣隊百二十六名上海ニ歸著ス
- 二 上海附近ニ殘置シタル海軍陸戰隊兵力約二千名トス

第六節 上海事件ニ對スル國際情勢

上海事件ニ對スル國際聯盟ノ態度

國際聯盟ハ一月二十五日ヨリ瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第六十六回理事會ヲ開催中ナリシカ上海方面ノ情勢惡化シ遂ニ一月二十八日日支兩軍ノ衝突トナリ翌二十九日支那代表顏惠慶カ聯盟規約第十五條ニ依リ理事會付託方ヲ要請スルヤ從來極東ノ一地方問題トシテ看做サレシ日支紛争ハ今ヤ世界的問題

トシテ宣傳セラレ爲ニ滿洲事變勃發當時ニ比シ更ニ大ナル衝動ヲ招來スルニ至レリ

附記

聯盟規約第十五條

- 一 聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛争當事國モ紛争ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之カ十分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス
- (以下省略)

理事會ハ右提案ヲ受理スルニ決セリ

國際聯盟ハ前回理事會ニ於テハ帝國ノ滿洲ニ於ケル自衛權行使ノ正當ナルヲ容認スルト共ニ日支間ノ紛争ハ聯盟規約第十一條ノ範圍國際ノ平和又ハ其基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セントスル虞アルモノニ止ルモノトノ見解ヲ以テ終始シタリト雖今ヤ同第十五條ノ適用ニ依リ上海事件ハ「國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争」ト看做スニ至レリ是ニ於テ帝國代表特命全權公使佐藤尙武ハ聯盟規約第十五條ニ依ルノ必要ナキヲ力説セリト雖容ルルトコロトナラス

次テ翌三十日聯盟事務總長「ドラモンド」ハ上海ノ事態ヲ調査報告セシムル爲上海ニ國際委員會日支兩國事國ニシテ上海ニ外交代表者ヲ有シ事態ノ情報ヲ供給シ得ル地位ニ在ル諸國ノ外交代表者ヲ以テ組織スヲ組織スヘキヲ提議セシカ理事會ハ之ヲ可決セリ

附記

第十五條第四項ニ依レハ紛争當事國タル日支兩國ノ贊否如何ニ拘ラス聯盟獨自ノ見地ヨリ見タル勸告ヲ爲シ得ルヲ以テ小

國ハ聯盟ト米國トヲ結合シテ世界的壓力ヲ以テ勸告ノ實行ヲ兩當事國ニ強要セントセリ

帝國政府
ノ方針

一方帝國政府ハ上海方面ハ飽クマテ滿蒙ト別箇ニ取扱ヒ局地的ニ解決スルヲ以テ一般方針ト爲シ一月二十九日夜帝國ノ公正ナル立場竝意圖ヲ中外ニ闡明スル爲左記要旨ノ聲明ヲ發表セリ

今次上海方面ニ於ケル帝國海軍ノ行動ハ既往ニ於テ主要列國カ同地方ニ於テ屢々取り來レル實力行動ト等シク全ク居留邦人ノ生命財產其他帝國權益ノ擁護ヲ目的トスル外他意ナキト共ニ今回ノ派兵ハ從來帝國カ英、米、佛等ノ上海駐屯軍ニ比シ少數ノ陸戰隊ヲ同地ニ駐メ居タルヲ事態ニ應シ増加セルニ過キサルトコロニシテ我ハ固ヨリ列國協調ノ方針ヲ持シ現ニ出先帝國官憲ハ關係各國領事館、共同租界工部局、各國駐屯軍ト密接ナル連絡ヲ保チツツアル次第ニシテ帝國ハ上海地方ニ對シ何等政治的野心ヲ有セサルハ勿論同地方ニ於ケル列國ノ權利、利益ヲ侵害スルカ如キ意圖ナキコトハ多言ヲ要セサルトコロナリ

英、米、佛、伊ノ列國ハ上海ニ於ケル事態ヲ憂慮シ夫々若干ノ兵力ヲ上海方面ニ増派シテ利權ノ保護ニ當ラシメタルカ一月三十日駐日英國大使「リンドレー」及同米國大使「フォーブス」ハ相次テ外務大臣

芳澤謙吉ヲ訪問シ上海ニ於ケル最近ノ日本側ノ行動ニ依リ列國臣民ノ生命及利益カ危險ニ曝サレタルコトニ就テ注意ヲ喚起シ且共同租界ヲ攻撃ノ本據トシテ使用スルコトニ抗議スヘシトノ本國ノ訓令ヲ傳達スルト共ニ成ルヘク速ニ正常狀態ニ復歸スヘク有ユル努力ヲ拂ハレタキ旨要求セリ之ニ對シ芳澤

外務大臣ハ翌三十一日午後英、米、佛ノ各大使ヲ個別ニ外務省ニ招請シ各國ノ誤解ヲ釋ク爲懇談スルトコロアリ

然ルニ二月一日午後英、米兩國大使ハ相前後シテ再ヒ芳澤外務大臣ヲ訪問シ夫々本國政府ノ訓令ニ基キ口頭ヲ以テ左記要旨ノ正式抗議ヲ提出セリ

一 日本軍ノ軍事行動ハ正當防衛的自衛手段ノ範圍ヲ越エ必要以上ノ處置ニ出テタル點アリト認メラル

一 上海共同租界ハ日本一國ノ租界ニアラスシテ列國夫々權益ヲ有スル特殊ノ性質ヲ帶ヒタル地帯ナリ然ルニ此共同租界ヲ日本カ軍事行動ノ根據地トシタル爲租界ハ戰禍ヲ被リ英、米居留民ノ生命財產ハ危機ニ瀕シツツアルカ是レ日本ノ責任ナリ

一 日本ハ單獨ノ行動ヲ取ラス共同租界ノ性質ニ合致スルカ如キ行動ニ於テ租界ノ防衛ニ當ルヘキモノナリ而シテ租界ヲ速ニ常態ニ恢復セシムル爲一切ノ處置ヲ取ル様要求ス

一 日本軍ハ空軍ノ爆撃ニ依リ支那ノ武装ナキ非戰鬥員ニ危害ヲ加ヘタリ斯カル行動ハ第三國トシテ到底默視シ得サルトコロナリ

芳澤外務大臣ハ右ノ抗議ニ對シ何レモ根據ナキ虛報又ハ爲ニスル宣傳ニ基クモノナルヲ認メ口頭ヲ以テ其認識ノ誤レル點ヲ一々指摘シテ論駁ヲ加フルト共ニ事件ノ真相ニ關シテ詳細ナル説明ヲ與ヘタ

國ハ聯盟ト米國トヲ結合シテ世界的壓力ヲ以テ勸告ノ實行ヲ兩當事國ニ強要セントセリ

帝國政府
ノ方針

一方帝國政府ハ上海方面ハ飽クマテ滿蒙ト別箇ニ取扱ヒ局地的ニ解決スルヲ以テ一般方針ト爲シ一月二十九日夜帝國ノ公正ナル立場竝意圖ヲ中外ニ闡明スル爲左記要旨ノ聲明ヲ發表セリ

今次上海方面ニ於ケル帝國海軍ノ行動ハ既往ニ於テ主要列國カ同地方ニ於テ屢々取り來レル實力行動ト等シク全ク居留邦人ノ生命財產其他帝國權益ノ擁護ヲ目的トスル外他意ナキト共ニ今回ノ派兵ハ從來帝國カ英、米、佛等ノ上海駐屯軍ニ比シ少數ノ陸戰隊ヲ同地ニ駐メ居タルヲ事態ニ應シ増加セルニ過キサルトコロニシテ我ハ固ヨリ列國協調ノ方針ヲ持シ現ニ出先帝國官憲ハ關係各國領事館、共同租界工部局、各國駐屯軍ト密接ナル連絡ヲ保チツツアル次第ニシテ帝國ハ上海地方ニ對シ何等政治的野心ヲ有セサルハ勿論同地方ニ於ケル列國ノ權利、利益ヲ侵害スルカ如キ意圖ナキコトハ多言ヲ要セサルトコロナリ

英、米、佛、
伊、日、共
同提議

英、米、佛、伊ノ列國ハ上海ニ於ケル事態ヲ憂慮シ夫々若干ノ兵力ヲ上海方面ニ増派シテ利權ノ保護ニ當ラシメタルカ一月三十日駐日英國大使「リンドレー」及同米國大使「フォーブス」ハ相次テ外務大臣芳澤謙吉ヲ訪問シ上海ニ於ケル最近ノ日本側ノ行動ニ依リ列國臣民ノ生命及利益カ危險ニ曝サレタルコトニ就テ注意ヲ喚起シ且共同租界ヲ攻撃ノ本據トシテ使用スルコトニ抗議スヘシト本國ノ訓令ヲ傳達スルト共ニ成ルヘク速ニ正常狀態ニ復歸スヘク有ユル努力ヲ拂ハレタキ旨要求セリ之ニ對シ芳澤

外務大臣ハ翌三十一日午後英、米、佛ノ各大使ヲ個別ニ外務省ニ招請シ各國ノ誤解ヲ釋ク爲懇談スルトコロアリ

然ルニ二月一日午後英、米兩國大使ハ相前後シテ再ヒ芳澤外務大臣ヲ訪問シ夫々本國政府ノ訓令ニ基キ口頭ヲ以テ左記要旨ノ正式抗議ヲ提出セリ

一 日本軍ノ軍事行動ハ正當防衛的自衛手段ノ範圍ヲ越エ必要以上ノ處置ニ出テタル點アリト認メラル

一 上海共同租界ハ日本一國ノ租界ニアラスシテ列國夫々權益ヲ有スル特殊ノ性質ヲ帶ヒタル地帯ナリ然ルニ此共同租界ヲ日本カ軍事行動ノ根據地トシタル爲租界ハ戰禍ヲ被リ英、米居留民ノ生命財產ハ危機ニ瀕シツツアルカ是レ日本ノ責任ナリ

一 日本ハ單獨ノ行動ヲ取ラス共同租界ノ性質ニ合致スルカ如キ行動ニ於テ租界ノ防衛ニ當ルヘキモノナリ而シテ租界ヲ速ニ常態ニ恢復セシムル爲一切ノ處置ヲ取ル様要求ス

一 日本軍ハ空軍ノ爆撃ニ依リ支那ノ武裝ナキ非戰鬥員ニ危害ヲ加ヘタリ斯カル行動ハ第三國トシテ到底默視シ得サルトコロナリ

芳澤外務大臣ハ右ノ抗議ニ對シ何レモ根據ナキ虛報又ハ爲ニスル宣傳ニ基クモノナルヲ認メ口頭ヲ以テ其認識ノ誤レル點ヲ一々指摘シテ論駁ヲ加フルト共ニ事件ノ真相ニ關シテ詳細ナル説明ヲ與ヘタ

附記 英、米兩大使ノ外務大臣訪問後佛國大使「マルテル」モ外務大臣ト會見セルカ同大使ノ訪問ハ友好的の注意喚起ノ程度ニ過キ
サリキ

次テ翌二日前記英、米、佛三國大使ハ三タヒ外務省ニ來リ左記要旨ノ提案ヲ手交セリ 内容ハ三國共殆ト同
一ニシテ帝國ニ提案
スルト同時ニ支那政府
ニ對シテモ提案セリ

一 左記條件ニ依リ雙方一切ノ強力行爲ヲ中止スルコト

イ 是以上敵對行爲ノ爲ニスル何等ノ發動又ハ準備ヲ爲ササルコト

ロ 日支雙方ノ交戦者ヲ上海ノ地域内ニ於ケル一切ノ接觸地點ヨリ撤退スルコト

ハ 交戦者ノ間ヲ隔離スヘキ中立地帯ヲ設クルコトニ依リ共同租界ヲ保護スルコト此等地帯ハ中

立國人ニ於テ警備シ之カ取極ハ領事官憲ニ於テ定ムルコト

二 上記諸條件カ受諾セラルルニ於テハ巴里條約及十二月九日ノ國際聯盟決議ノ精神ニ準據シ豫メ
要求又ハ留保ヲ爲スコトナク且中立ノ監視者又ハ參加者ノ援助ノ下ニ兩國間ニ現存スル總テノ紛
爭ヲ解決スル爲ノ交渉ヲ促進スルコト

之ニ對シ帝國政府ハ左記回答文ヲ發スルニ決シ二月四日前記三大使ヲ外務省ニ招請シテ之ヲ手交セ
リ

一 支那軍ノ挑戰竝騷擾的行爲ヲ即時且完全ニ停止セシムルヲ要ス右ニシテ確保セラルルニ於テハ

帝國軍ニ於テモ戰鬪行爲ヲ中止ス

若支那側 正規軍タルト便衣
隊タルトヲ問ハスニシテ挑戰若ハ騷擾的行動アル場合帝國軍ノ取ルヘキ行動ニ就テハ完全ニ

其自由ヲ留保ス

二 支那側從來ノ不信ナル行動竝現在ノ重大ナル形勢ニ鑑ミ我カ方トシテハ動員又ハ戰鬪ノ準備ヲ

爲ササルコトハ不可能ナリ

三 日支雙方交戦者ノ離隔及必要ニ應シ開北附近中立地帯ノ設定ニ關シ領事及軍隊指揮官ヲシテ取

極ノ交渉ニ當ラシムルニ異存ナシ

四 所謂兩國間ニ現存スル一切ノ紛爭中ニハ滿洲事件ヲ含ムモノト解セラルルトコロ同事件ハ上海
事件トハ全然別箇ノ問題ナルノミナラス滿洲事件ニ就テハ客年十二月十日ノ理事會決議アリ且又
同事件ノ解決ニ就キ第三國監視者又ハ參與者ノ援助ヲ受諾シ得サルハ帝國政府ノ既定方針ナルヲ
以テ本項ハ我カ方ノ同意シ得サルトコロナリ

附記 南京政府ハ右三國ヨリノ提案ヲ無條件ニテ受諾セリ

帝國政府ハ陸軍ノ上海出動ニ際シ二月七日左記要旨ノ聲明ヲ中外ニ公表セリ

一 統制ナキ支那ノ現狀ニ顧ミ又過去ニ於ケル幾多ノ事例ニ照シ上海附近ニ集中セル支那ノ大軍ハ

帝國陸軍
派遣ニ際
スル政府
ノ聲明

無責任ナル政治家等ノ煽動ニ依リ何時如何ナル暴舉ニ出ツルヤモ測リ難キ一方今ヤ我カ陸戰隊ハ僅々三千名ノ兵力ヲ以テ其前面及側面ニ十數倍ノ支那軍ヲ控ヘ不眠不休ノ努力ヲ續ケ居リ我カ居留民ハ極度ノ不安ニ驅ラレツツアル狀況ニテ形勢愈々危殆ニ陥リ一刻ノ猶豫ヲモ許ササル次第ナルトコロ海軍兵力ハ元來艦船ノ乘員トシテ之ヲ養成シ居ル爲其陸上派兵ニハ自ラ一定ノ限度アルヲ以テ此際陸軍兵力ノ増派ニ依リ支那軍ノ脅威ヲ去リ一日モ速ニ上海ノ常態ヲ恢復シ列國民ノ不安ヲ除去スルヲ緊要ト認メ茲ニ所要ノ陸兵ヲ上海方面ニ派遣シ以テ從來ノ海軍力ト協力セシメラルルコトトナレル次第ナリ

二 要スルニ今次帝國陸軍ノ上海方面派遣ノ目的ハ既往ニ於ケル帝國ノ同方面ニ對スル累次ノ海兵派遣ト等シク支那側ノ不法ナル暴行ヲ停止セシメ以テ帝國臣民保護ノ萬全ヲ期シ併セテ租界防備ニ關スル國際的義務ヲ全ウスルニ在ルヲ以テ其兵力ハ右目的達成ノ爲必要ナル限度ニ止メ且其行動ハ列國共同ノ利益ヲ確保スルノ方針ニ則ルヘク從テ支那側ニシテ敵對行動ヲ終止セサルカ又ハ右我カ軍ノ目的遂行上ノ行動ニ對シ妨害ヲ加フルニ於テハ之ニ對シ必要ノ對抗手段ヲ行使スヘキモ我カ方ヨリ進ンテ攻勢ニ出ツルカ如キコトナキハ勿論ナリ將又我カ方ニ於テ上海地方ニ對シ何等政治的野心ヲ有セサルハ固ヨリ同地方ニ於ケル列國ノ權益ヲ侵害スルカ如キ意圖ナキコトハ既ニ聲明セル通りニシテ帝國政府ノ上海地方ニ對シ要望スルトコロハ畢竟列國協調及相互扶助ノ精

國際聯盟
理事會
總召集
會議
對日
提議
之
理由
提出

神ニ依リ關係各國ト共ニ同地方ニ於ケル治安ノ維持ト繁榮ノ増進トヲ圖リ延イテ東洋ノ平和ト福祉トニ貢獻スルニ存ス

國際聯盟理事會ハ前記三十日ノ決議 上海ニ國際委員會ヲ設置スル件ニ引續キ數次ニ互リ會議ヲ開催シツツアリシカ幾多ノ曲折ヲ經テ二月九日上海附近ニ中立國軍隊ヲ以テ占據セシムヘキ中立地帯ヲ迅速ニ設定スヘキヲ勸告スルニ至レリ

然ルニ支那側ハ聯盟理事會ノ審議ノ進捗遲々タルヲ慊ラスト爲シ二月十二日聯盟總會ノ召集ヲ要請セシカ理事會ハ十九日ノ理事會ニ於テ三月三日總會ヲ召集スヘキ件ヲ決定セリ

一方帝國陸軍ノ上海派遣部隊ハ二月上旬ヨリ同中旬ニ互リ上海ニ到着シ他面支那第十九路軍ハ益々挑戰的態度ヲ鞏固ナラシメツツアリシヲ以テ國際聯盟ハ茲ニ何等カノ處置ニ出テンコトニ腐心シ理事會ハ二月十六日日支兩國ヲ除ク十二國理事會ヲ開會シ支那側ノ特別總會召集要請問題ヲ審議スルト共ニ日本政府ニ對シ支那トノ間ニ平和的諒解ヲ達成スヘキ「アツピール」願ヲ提出スルニ決シ同日夜理事會議長「ボンクール」ハ帝國代表佐藤尙武ニ左記文書要旨ヲ手交セリ

十二國理事會ハ日本カ聯盟規約ニ約定セラレタル平和的解決方法ニ無留保ニ服スルコトヲ可能ナリト思考セラレサリシコトヲ遺憾トセサルヲ得ス十二國理事會ハ國際紛爭ノ解決ハ決シテ平和的手段以外ニ依リ求メラルヘカラサル旨ノ巴里條約ノ嚴肅ナル約束ニ關シ日本ニ對シ今一應注意ヲ喚起ス十二

國理事ハ支那カ其領土内ニ展開シアル鬭争ノ當初ヨリ對日紛議ヲ聯盟ニ提出シ且平和的解決ヲ目的トスル聯盟側諸提案ヲ受諾スヘキ旨約セルコトヲ認メサルヘカラス

十二國理事ハ聯盟規約第十條ノ條文ニ依レハ聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且之ヲ維持スヘキ旨約シ居ルコトヲ想起セント欲ス十二國理事ハ友誼上ヨリ右規定ニ關シ注意ヲ喚起スルノ權利アリ十二國理事ノ意見ニ依レハ右規定ノ結果規約第十條ヲ無視シテ行ハレタル聯盟國領土ノ保全侵害及其政治的獨立ノ毀損ハ決シテ聯盟國ニ依リ有效且實效的ト認メラレ得ス

日本ハ世界輿論ニ對シ其對支關係ニ於テ其態度ノ正常且穩健ナルコトヲ示スヘキ絶大ナル責任ヲ有シ居レリ

對日「ア
フビニ
アルニ
スルニ
政府ノ
明

帝國政府ハ十七日午後右「アッピール」ヲ受領シテ之ヲ慎重検討シタル結果其内容ニ於テ幾多ノ不合理アルヲ認メ二十三日閣議ヲ經テ芳澤外務大臣ノ名ヲ以テ理事會議長「ボンクール」宛答翰ヲ發電スルト共ニ帝國代表佐藤特命全權大使ヲシテ左記聲明旨ヲ發表セシムヘク處置セリ

一 十二國理事カ挑戰ノ主動者タル支那側ニ對シ要求スルコトナク日本ニ對シテノミ隱忍ヲ要求スルハ妥當ナラス

二 十二國理事カ上海ニ於ケル安全保障ノ爲何等積極的具體的條件ヲ提議スルコトナク單ニ日本軍ノ戰鬪行爲中止或ハ撤兵ヲ期待スルハ必然的ニ共同租界ヲ暴戻ナル支那軍ノ占領ニ委スルモノナ

リ

三 支那ハ終始紛争ヲ平和的ニ解決スルノ用意アルニ拘ラス日本ハ否スト爲セルハ最モ不當ナル點ナリ

支那側ノ攻撃的措置ハ平和的聲明アルノ故ヲ以テ之ヲ許シ日本ノ防禦的措置ハ戰鬪的ナリトシテ之ヲ排斥スルカ如キハ毫モ理由ナキコトナリ

平和的解決ニ關スル如何ナル條約モ正當ナル自衛ノ權利ヲ毫モ妨クルモノニアラサルコトハ一般ニ認メラレタル公理ナリ

四 今回ノ申入ハ聯盟規約第十條ヲ引用シアルモ日本ノ措置ハ嚴ニ防禦的ナルヲ以テ何等同條規定ニ觸ルルモノニアラス是嘗テ列國カ上海防備ノ爲強大ナル増援軍ヲ派遣シ又英、米軍カ南京ヲ砲撃シタルトキニ於テ何等本規約條項ニ就キ問題ノ惹起セラレサリシニ徴スルモ明白ナリ

五 帝國政府ハ再ヒ茲ニ支那ニ於テ何等領土的又ハ政治的意圖ヲ有セサルコトヲ強調ス

六 日本ハ固ヨリ九國條約上ノ一切ノ義務ヲ遵守スル用意アルモ同條約調印國以外ノ國ヲモ交ヘテ又調印國ノ或ルモノヲ含マスシテ其規定ニ就キ論議スルハ不便民且不適當ナリト思考ス

七 日本政府ハ支那ヲ以テ聯盟規約ニ所謂「組織アル國家」ト思考セス又思考シ得サルコトヲ強調セ

八 一部世上ニ於テハ日本ニ對シ戰爭ヲ獎勵シ且之ヲ希望スルモノナルカノ如キ惡評ヲ負ハサントスルモノアルモ日本ハ之ヲ強ク斥クルモノニシテ日本國民ハ戰爭及之ニ伴フ避ケ難キ慘禍ヲ厭フコトニ於テ何國ニモ劣ラサルモノナリ十二國ノ努力ニ依リ支那側ヲシテ平和的態度ヲ取ラシムルニ至ラハ何國ヨリモ先ツ最モ之ヲ欣フハ日本國民ナラン

上海事件
處理ニ關
スル原則
ノ確立

帝國政府ハ上海事件ノ如キ地方的問題ニ對シテハ極力局地的ニ解決スヘキ方針ヲ取リツツアリシコトハ既述ノ如クナルカ芳澤外務大臣ハ二月二十六日在上海重光特命全權公使及在「ジュネーヴ」佐藤特命全權大使ニ訓電ヲ發シ上海ニ於ケル日支兩軍ノ撤退及善後措置ノ爲上海ニ關係列國ノ圓卓會議ヲ開催セシムヘク交渉ヲ命セリ而シテ圓卓會議開催ニ關スル帝國ノ提案ハ列國並國際聯盟ニ好感ヲ以テ迎ヘラレ上海ニ於テハ停戰交渉ノ開始ヲ促進セシムルト共ニ「ジュネーヴ」ニ於テハ事件處理原則ヲ確立スルニ至レリ

即チ「ジュネーヴ」ニ於ケル帝國代表部ハ二十八日圓卓會議開催ニ關スル外務大臣ノ覺書ヲ發表セシカ聯盟理事會ハ翌二十九日該提案ヲ審議シ左記要旨ノ根本原則ヲ決議セリ

- 一 先ツ第一ニ上海ニ於テ停戰ニ關スル地方的取極ヲ結フ
- 二 在上海列國文武官憲ハ之ニ協力ス
- 三 上海ニ於テ特殊利益ヲ有スル主ナル列國政府ノ代表者ヲ以テ圓卓會議ヲ開キ上海共同租界及佛

國租界並其住民ノ危險ニ對シ保障スヘキ取極其他事件ノ解決ニ就キ協議ス

附記 帝國政府ハ右原則ニ同意シ三月一日受諾ヲ回答セリ

三月三日
乃至十一
日特別聯
盟總會

二月十二日ノ支那側ノ要求ニ基キ召集セラレタル特別國際聯盟總會ハ三月三日以後「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレタルカ上海方面ニ於テハ帝國上海派遣軍ノ大勝ニ依リ三日ヲ以テ略々所期ノ目的二月十九日附第九師團長ノ發シタル期限附撤兵要求ニ示サレタル線内ノ支那軍掃蕩ヲ達シ同軍司令官白川大將ハ午後二時停戰ニ關スル聲明ヲ發シタルト二月二十九日理事會ニ於テ決定セラレタル事件處理原則ト相俟チテ總會ノ空氣ハ帝國ニ取リ比較的有利ナル状態ヲ呈セリ而シテ總會ハ三月三日以後數次ニ互リ合同商議ヲ遂ケタル結果十一日左記決議案要旨ヲ可決セリ

一 總會ハ聯盟規約ノ規定カ現下ノ紛爭ニ全部適用セラルヘキモノナルコト特ニ左ノ諸點ニ關シ然ルヘキモノナルコトヲ考慮ス

イ 條約ノ嚴重ナル尊重ノ原則

ロ 聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトノ聯盟國ノ爲シタル約束

ハ 聯盟國間ニ發生スル一切ノ紛爭ヲ平和的解決方法ニ附スヘキ聯盟國ノ義務

二 總會ハ日支紛爭ノ解決カ當事國ノ一方ノ武力的壓迫ノ下ニ於テ求メラレ得ヘキコトハ規約ノ精

神ニ反スルコトヲ承認ス

三 總會ハ本件紛争ニ對シ一月二十九日支那政府カ聯盟規約第十五條所定ノ手續ヲ適用セントスル

旨ノ要求竝二月十二日同政府カ規約第十五條第九項ニ基キ紛争ヲ總會ニ付託セントスル旨ノ要求

ニ基キ爲セル二月十九日理事會ノ決議ニ願ミ十九名議長及十二國理事並新選出スヘキ六國理事ヨリ成ル一委員會ヲ構成ス

ヘキコトヲ決定シ左記任務ヲ擔任セシム

イ 敵對行爲ノ停止及右敵對行爲ノ停止ヲ決定的タラシメ且三月四日ノ總會決議ニ從ヒ日本軍ノ

撤退ヲ規定スヘキ取極締結ニ關スル報告ヲ能フ限り速ニ作製スルコト

ロ 一千九百三十一年九月三十日及十二月十日理事會ニ依リ採擇セラレタル決議ノ實行ヲ注視ス

ルコト

ハ 規約第十五條第三項ニ基キ兩當事國ノ合意ヲ以テ紛争解決準備方ニ努力シ且總會ニ説明書ヲ

提出ス

然ルニ帝國代表佐藤特命全權大使ハ帝國政府ノ訓令ニ基キ右決議草案ニ於テ日本政府カ自衛上已ムナクシテ取ルニ至リタル行動ヲ目シテ恰モ他國現在ノ政治的獨立乃至領土保全ニ打撃ヲ與ヘントスルモノト爲シ又ハ日本政府カ何等カノ目的ヲ遂行センカ爲武力的壓迫ヲ試ミタリト稱セラレアルハ日本政府ノ特ニ遺憾トスルトコロニシテ且日本ハ今次總會ニ於テ聯盟規約第十五條ノ適用ニ關シテ或ル種ノ

留保ヲ附シテ參加シタルモノナリトノ理由ノ下ニ決議案ノ投票ヲ棄權セリ又支那代表顏惠慶ハ該決議案ニ對シ反對ノ意志ヲ有セサルモ本國政府ヨリノ訓令來ラサルノ故ヲ以テ投票ヲ棄權シタルモ三月十二日ニ至リ正式ニ之ヲ受諾セリ

附記 上海國際委員會ノ報告ハ二月八日乃至三月六日四回ニ互リ提出セラレタルモ其内容ハ從來ノ帝國ノ報告ヲ裏書スルノ程度

ニ過キサリキ

第七節 停戰交渉

英艦「ケ
ント」上
ノ日支交
渉

英、米、佛三國カ一月三十日乃至二月二日ノ間帝國ニ對シ三回ニ互リ上海附近ノ事態收拾ニ關スル提案ヲ申出テタルコトハ前節ニ於テ記述シタル如クナルカ之ニ關聯シ上海附近ニ於テモ列國駐支外交官憲ハ漸ク活動ヲ開始スルニ至レリ即チ英國公使「ランブソン」及佛國公使「ウイイルデン」ハ二月十二日南京ヨリ上海ニ到リ日支兩軍ノ停戰ニ關シ斡旋スルトコロアリシモ何等具體的進捗ヲ見ルニ至ラス

然ルニ第九師團ハ二月二十日以後ノ第一次攻撃ニ引續キ二十五日第二次攻撃ニ依リ支那軍ニ對シ大ナル打撃ヲ與ヘタリシカ支那側ハ日本軍増援隊ノ到着以前ニ於テ停戰ヲ有利ニ協定スヘキ企圖ノ下ニ英國東洋艦隊司令長官「ケリー」提督ニ調停ヲ依頼セリ野村第三艦隊司令長官ハ二十七日「ケリー」司令長官ヨリ右ノ如キ支那側ノ意向ヲ承知スルヤ第九師團長ノ意向ヲ確メタル後二十八日午後松岡洋右

外務省ヨリ特派セラレト共ニ英艦「ケント」ニ到リ支那第十九路軍參謀長黃強及顧維鈞支那外交部長羅文ト會見シレ當時上海ニ在リ英國東洋艦隊司令長官立會ノ下ニ二時間餘ニ互リ會見セシモ交渉成立スルニ至ラス
 次テ三月二日松岡洋右ハ第三艦隊司令長官ト共ニ英艦「ケント」ニ赴キ「ケリー」司令長官ニ面接シ左記
 外務大臣訓電ニ依ル停戰條件ヲ手交シ日本側ニテハ何時ニテモ停戰ニ關シ支那側ト會同商議スルノ用
 意アル旨ヲ告ケタリ

停戰條件

- 一 支那側ニ於テ支那軍ヲ上海附近ヨリ一定距離現地ニ於テ協定スニ撤退スルニ於テハ一定期間現地ニ於テ協定ス兩軍ノ間ニ戰鬪行爲ヲ中止シ戰線ノ現狀ヲ維持ス
- 二 右停戰ニ關聯シ上海ニ於テ利害關係國代表者ヨリ成ル圓卓會議ヲ開催シ右停戰期間内ニ兩國軍隊ノ離隔竝上海附近ノ平靜維持ニ關スル具體的方法ヲ協定ス
- 三 兩軍ヲ離隔スル爲ニハ先ツ支那側恒衣隊ヲ含ムヲシテ撤退ヲ實行セシメ之ヲ確認シタル後日本軍ハ先ツ概ネ上海、吳淞鎮附近ノ地區ニ撤收シ次テ事態ノ平靜トナルニ伴ヒ逐次上海附近我カ陸兵ヲ支那領土外ニ撤去ス
- 四 何レカ一方カ停戰條件ニ背反セル場合他ノ一方ハ戰鬪再開ノ權利ヲ有ス停戰期間終了スル場合

三月四日
 國際聯盟
 總會決議
 支對日
 態度

亦同シ

然ルニ上海派遣軍ハ三月一日ヨリ總攻撃ヲ開始シテ大勝ヲ博シ同三日ニハ既ニ白川軍司令官ハ自發的ニ停戰ノ聲明ヲ發セシヲ以テ前記停戰條件ハ支那側ニ通達セラレスシテ終レリ
 而シテ國際聯盟特別總會ニテハ三月四日「日支兩國代表者ハ上海租界ニ特別利害關係ヲ有スル他ノ諸國ノ陸海軍及文官タル當局ノ援助ノ下ニ戰鬪中止ヲ決定のニシ且日本軍ノ撤去ヲ規律スヘキ協定ヲ結フ爲交渉ヲ開始センコトヲ勸獎ス」トノ旨決議シ日支兩國共ニ之ヲ受諾セルモ支那側ハ内部的軋轢等ニ依リ内心停戰ヲ熱望シツツモ正式ニ之ヲ提議スル決意ナカリシヲ以テ重光特命全權公使ハ帝國政府ノ指示ニ基キ三月九日英國公使「ランブソン」ノ手ヲ經テ國民政府外交部次長郭泰祺ヲ通シ支那當局ニ左記要旨ノ覺書ヲ手交セリ

在上海日本文武官憲ハ三月四日國際聯盟總會決議ノ定ムルトコロニ從ヒ支那官憲ト商議ヲ開始スルノ用意アリ前線ニ於ケル狀況未タ安心ヲ許ササル此際至急完全ナル戰鬪停止ニ關スル徹底的ナル協定ヲ爲シ更ニ日本軍隊撤收ノ爲ノ取極ヲ討議決定スルコトヲ急務ナリトス
 之ニ對シ支那側ハ十日午後交渉開始ノ提議ニ應諾スル旨ヲ以テ左ノ如ク回答シ來レリ
 支那政府ハ三月四日ノ聯盟決議案ノ規定ニ從ヒ日本官憲ト交渉ヲ開始スルノ用意アリ但右ハ首席代表顏惠慶カ決議案承認ニ際シ聲明セル通りトス

附記 顧惠慶ノ聲明要旨、決議第三項ハ上海ニ於ケル國際會議ニ關スルヨリモ主トシテ日支兩軍ノ戰鬪行為停止ニ關スルモノニシテ且侵入シタル支那領土ヨリノ日本軍ノ撤退ニハ何等ノ條件ヲモ附スヘカラサルコトヲ條件トシテ決議案ニ贊成ス

(一) 斯カル交渉ハ戰鬪行為ノ確然タル停止及日本軍ノ完全ナル撤收ニ關係スル事項ノミニ限定シ(二) 此種ノ撤兵ニ就キ何等條件ヲ附セストノ諒解附ナルヲ要ス

然ルニ帝國ハ支那側ノ提示シタル『日本軍ノ完全ナル撤收』等ノ條件ハ之ヲ認容スル能ハス十一日之ニ關シ聲明ヲ發スルト共ニ英國公使「ランブソン」ヲ通シテ支那側ニ提示シ交渉開始ニ對スル條件附受諾ニ反對セリ

停戰豫備會議

而シテ英國公使「ランブソン」ハ右ノ如キ形勢ヲ打開スヘク斡旋大ニ勉メ十四日ヨリ二十一日ニ至ル間英國總領事館ニ於テ米、佛、伊三國公使、重光公使並外交部次長郭泰祺會同ノ下ニ四回ニ互リ停戰豫備會議ヲ開催シ結局左記基本協定三則ヲ確定セシカ日支兩國政府ハ之ヲ容認セリ

一 支那軍ハ後日取極成立マテ現駐ノ地點ニ留ルヘシ

二 日本軍ハ停戰正式會議ノ定ムル豫定ニ從ヒ租界及虹口方面ニ在ル租界外擴張道路ニ撤收ス

三 兩軍ノ撤收ヲ認證スル爲參加友好國ヲ代表スル委員ヲ含ム協同委員會ヲ設置ス

停戰正式會議

彼上ノ經緯ヲ經タル後三月二十四日ヨリ英國總領事館ニ於テ正式停戰會議開催セラルル委員及陪席者左ノ如シ

日本側 委員長 第九師團長中將 植田 謙吉

委員 上海派遣軍參謀長少將 田代 皖一郎

同 第三艦隊參謀長少將 島田 繁太郎

同 特命全權公使 重 光 葵

支那側 委員長 淞滬警備司令 戴 戟

委員 第十九路軍參謀長 黃 強

同 外交部次長 郭 泰 祺

中立國側(陪席者) 英、米、佛、伊四國公使及武官

會議ハ午前十時ヨリ開始セラレ日本側ヨリ左記協定案ヲ提出シ之ヲ逐條的ニ討議セリ

一 日支兩軍ハ敵對行為便衣隊ノ活ヲ停止シ相互ニ他方ノ名譽ヲ毀損シ民心ヲ刺激スル行為ヲセス

二 支那軍ハ現在ノ駐屯地ヨリ進出セス

三 日本軍ハ真茹、大場鎮、楊行鎮、獅子林ノ線以東ニ集結ス

四 日支兩國委員ヲ含ム混合委員會ヲ組織シ前記三項ノ事項ヲ監視ス

五 兩軍撤兵地帯内ノ治安維持ハ支那特別警察之ニ當リ混合委員會之ヲ監督ス

六 日支兩軍ノ一方カ前記第一乃至第三項ノ事項ニ違反シタル場合對手方ハ行動ノ自由ヲ留保ス

七 協定文ハ日、支、英三國文ヲ以テ作成シ疑義アルトキハ英文ニ準據ス
 爾後四月九日ニ至ル間十三回ニ互リ會議ヲ開催シ軍事上ノ問題決定ノ爲三月二十
六日以後小委員會ヲモ開催ス 帝國委員ハ爲シ得ル限り支
 那ノ希望ヲ容レテ讓歩シ以テ審議ノ進捗ヲ圖ルト共ニ四國側ノ斡旋亦多トスヘキモノアリタリト雖支
 那側ノ不誠意ニ依リ日本軍ノ集結地域及集結時期等ノ問題ニ於テ意見一致ヲ見ス交渉ハ一時停頓ノ悲
 境ニ際會スルニ至レリ依テ英國公使ハ四月九日左記妥協案ヲ提議セシカ帝國政府ハ十日之ヲ容認スル
 旨回訓セリ

帝國政府ハ上海及其附近ノ事態カ平常狀態ニ復スルヲ待チテ（帝國政府ハ六箇月乃至其以前ニ於テ
 右ノ如キ事態ノ改善ヲ見シコトヲ希望ス）其軍隊ヲ一月二十八日以前ノ地點即チ共同租界内及其擴
 張道路ニ集結スル用意アルコトヲ聲明ス

右ノ如キ帝國ノ異常ナル讓歩ニ依リ支那側ハ最早是以上會議ヲ遷延スルノ口實ノ發見ニ苦シミ茲ニ調
 印スルノ已ムナキ事態ニ逢著シタリト雖該協定ニ調印スルノ責任ヲ負フ者ナク遂ニ四月十一日突如聯
 盟理事顏惠慶ヲシテ繼續委員會十九箇國
委員會ニ對シ『上海停戰會議ハ日本ノ態度ニ依リテ決裂ノ危機ニ瀕セ
 リ一切ノ經過ヲ報告スル爲十九箇國委員會ノ至急開催ヲ要求ス』ト要請セシムルト共ニ國際聯盟ノ回
 答到著スルマテ停戰會議ノ延期ヲ申込ムニ至レリ
 而シテ繼續委員會十九箇國
委員會ハ十九日決議スルニ日本軍撤收可能時期ノ判定權ヲ上海混合委員會ニ與フル

十九箇國
委員會ノ
決議及之
帝國對スル
態度

ノミナラス三月四日及三月十一日ニ於ケル特別總會ノ決議ノ如キ結果ニ到達シ得サル場合ニハ本問題
 ニ關シ再ヒ總會ヲ開催スルコト等ヲ以テシタルヲ以テ帝國ハ繼續委員會カ停戰條件ノ内容ニ干涉シ且
 撤兵時期ノ問題ニ就キ帝國ノ統帥權ヲ干犯スルカ如キ決議ノ討議ニハ代表ヲ參加セシメサルコトニ決セリ
 附記 帝國ハ軍ノ撤收時期ノ判定問題ニ就テハ最重要視シツツアリタルモノニシテ之カ判定權ハ必然的ニ我方ニ在リトノ方
 針ヲ以テ一貫セリ蓋シ上海及其周圍ノ秩序恢復シ我カ居留民ノ生命財產ノ安泰確保ノ判斷ハ當事者タル帝國側ノミ能クシ得ルヲ
 以テナリ

停戰協定
ノ成立

駐支英國公使「ランブソン」ハ上海ニ於ケル日支停戰交渉ニ關シ終始斡旋ノ勞ヲ惜マサリシカ今ヤ支那
 側カ再度聯盟ニ賴リ繼續委員會ノ干涉ニ至レルヲ見テ大ニ憤激スルト共ニ支那側カ停戰協定調印ヲ回
 避シテ國際聯盟ニ其責任ノ一半ヲ轉嫁セントスルノ魂膽アルヲ看取シ四月二十二日懸案トナリツツア
 ル撤兵時期判定權ニ關シ左記妥協案ヲ起案シ之ヲ重光公使ニ提示シタル後二十四日南京ニ到リ支那政
 府要路者ト會見シ其考慮ヲ求メタリ

混合委員會ハ前記三條ノ規定ノ履行確實ナラサル點アラハ之ニ注意ヲ喚起シ得ヘシ
 斯クテ帝國政府並支那政府ハ之ヲ承諾スルニ至レリ

交渉開始以來紛糾ニ紛糾ヲ重ネタル停戰交渉モ漸ク其基礎事項確定シ五月五日之カ一切ノ調印ヲ終レリ

日支停戰協定

第一條 日本國及中國ノ當局ハ既ニ戰闘中止ヲ命令シタルニ依リ昭和七年五月五日ヨリ停戰カ確定

セラルルコト合意セララル

雙方ノ軍ハ其統制ノ及フ限り一切ノ且有ユル形式ノ敵對行爲ヲ上海ノ周圍ニ於テ停止スヘシ
停戰ニ關シ疑ヲ生スルトキハ右ニ關スル事態ハ參加友好國ノ代表者ニ依リ確メラルヘシ

第二條 中國軍隊ハ本協定ニ依リ取扱ハルル地域ニ於ケル正常狀態ノ恢復後ニ於テ追テ取極アルマ
テ其現駐地點ニ止ルヘシ前記地點ハ本協定第一附屬書ニ掲記セララル

第三條 日本軍隊ハ昭和七年一月二十八日ノ事件前ニ於ケルカ如ク共同租界及虹口方面ニ於ケル租
界外擴張道路ニ撤收スヘシ尤モ收容セララルヘキ日本軍隊ノ數ニ鑑ミ若干ハ前記地域ニ隣接セル地
方ニ當分ノ間駐屯セシメララルヘキモノトス前記地方ハ本協定第二附屬書ニ掲記セララル

第四條 相互ノ撤收ヲ認證スル爲參加友好國ヲ代表スル委員ヲ含ム共同委員會ヲ設置スヘシ右委員
會ハ又撤收日本國軍ヨリ交代中國警察ヘノ引繼ノ取運ニ協力スヘク右中國警察ハ日本國軍ノ撤收
スルトキ直ニ引繼ヲ受クヘシ右委員會ノ構成及手續ハ本協定第三附屬書ノ定ムル通りナルヘシ

第五條 本協定ハ其署名ノ日ヨリ實施セララルヘシ

本協定ハ日本語、中國語及英吉利語ヲ以テ作成セララル意義ニ關スル疑又ハ日本語、中國語及英吉
利語ノ本文ノ間ニ意義ノ相違アルトキハ英吉利語ノ本文ニ據ルヘシ

而シテ政治的交渉ヲ主トスヘキ圓卓會議ノ開催ハ成立セスシテ終レリ



